

2009年2月6日

# 2009年3月期第3四半期決算の概要 (2008年10月～12月)

東レ株式会社  
専務取締役 齊藤典彦

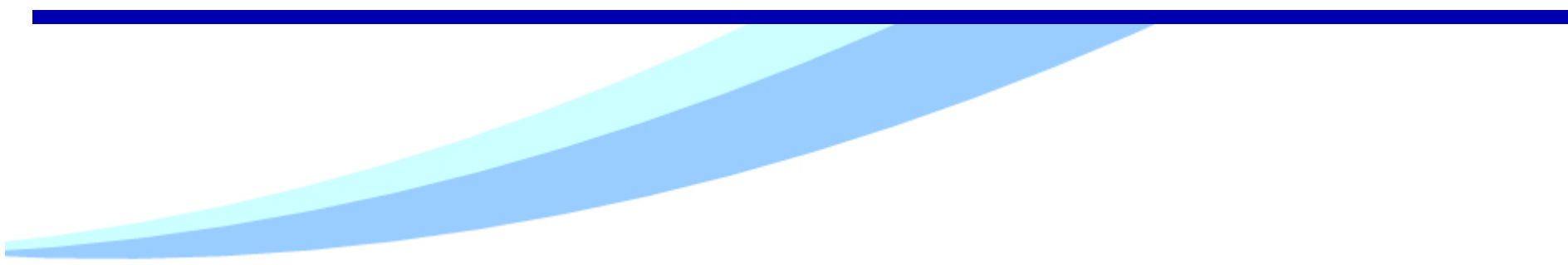
# 目次

## I. 2009年3月期第3四半期決算の概要


2009年3月期第3四半期決算の概要	(P3)
事業セグメント別業績	(P4-12)
2009年3月期第3四半期累計業績	(P13)
2009年3月期第3四半期累計セグメント別業績	(P14)
営業利益増減要因分析(第3四半期累計)	(P15)

## II. 2009年3月期通期連結業績見通し

2009年3月期通期連結業績見通し	(P17)
事業セグメント別売上高・営業利益見通し	(P18)
前回見通し→今回見通し 業績修正の要因分析と対策	(P19)
経営環境悪化への対応	(P20)
全社総合対策の推進	(P21)
<参考資料>最近のトピックス	(P23-26)



# I . 2009年3月期第3四半期決算の概要 (2008年10月～12月)



# 2009年3月期第3四半期決算の概要

単位：億円

単位：億円

	08年3月期 第3四半期 (10~12月)	09年3月期第 3四半期 (10~12月)	増減
売上高	4,051	3,681	-371 (-9.1%)
売上原価	3,274	2,994	-280 (-8.6%)
売上総利益	777	687	-90 (-11.6%)
(売上高総利益率)	19.2%	18.7%	-0.5 ポイント
販売費及び 一般管理費	584	558	-26 (-4.4%)
(売上高販管費比率)	14.4%	15.2%	+0.8 ポイント
営業利益	193	128	-65 (-33.5%)
(売上高営業利益率)	4.8%	3.5%	-1.3 ポイント
営業外収支	▲ 20	▲ 67	-47
経常利益	173	61	-111 (-64.4%)
特別損益	▲ 14	▲ 135	-121
税前利益	159	▲ 73	-232 (-)
四半期純利益	90	▲ 51	-141 (-)

	08年9月末	08年12月末	増減	08年3月末 <ご参考>
資産合計	16,902	16,421	-481	16,982
負債合計	10,753	10,743	-10	10,561
純資産合計	6,148	5,677	-471	6,422
有利子負債残高*	6,500	6,840	+340	5,912

\*08年9月末及び12月末はリース債務を含む

為替レート

<円/US\$>

(08/3 3Q) → (09/3 3Q)

期中平均 : 113.2 → 96.3

期末 : 114.2 → 91.0

<円/ユーロ>

(08/3 3Q) → (09/3 3Q)

期中平均 : 163.9 → 126.7

期末 : 166.7 → 128.0

原油価格

<US\$/バレル> (DUBAI FOB)

(08/3 3Q) → (09/3 3Q)

期中平均 : 83.2 → 52.6

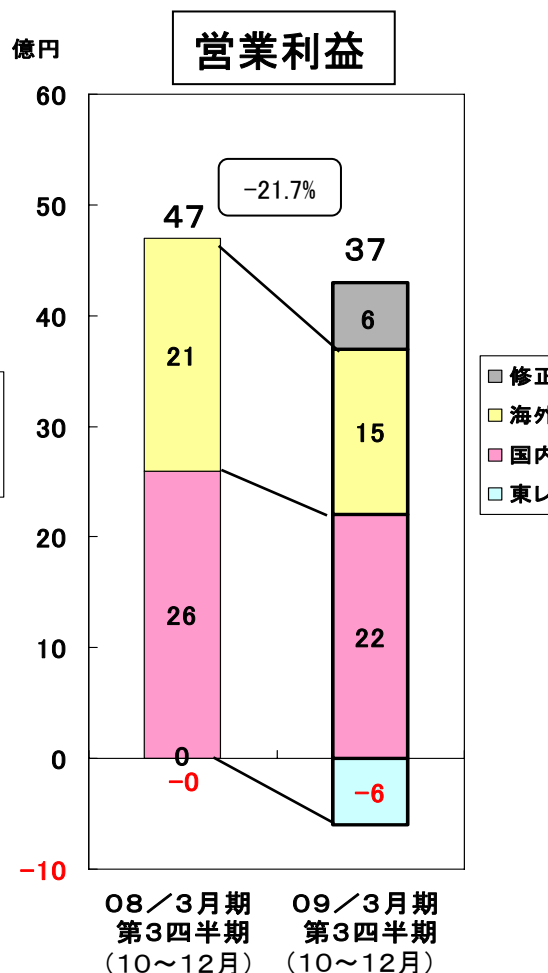
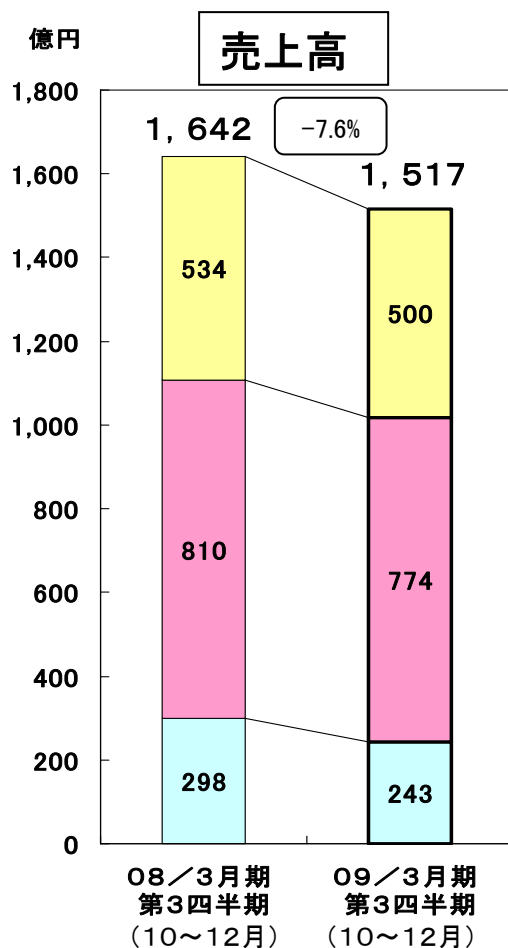
(注)3月期決算会社は10~12月の業績、12月期決算会社は7~9月の業績を連結

# 事業セグメント別業績

単位：億円

	売上高			営業利益		
	08年3月期 第3四半期 (10~12月)	09年3月期 第3四半期 (10~12月)	増減	08年3月期 第3四半期 (10~12月)	09年3月期 第3四半期 (10~12月)	増減
繊維	1,642	1,517	-125 (-7.6%)	47	37	-10 (-21.7%)
プラスチック・ケミカル	1,030	968	-61 (-5.9%)	45	26	-20 (-43.7%)
情報通信材料・機器	684	563	-121 (-17.7%)	42	32	-11 (-24.8%)
炭素繊維複合材料	211	169	-42 (-19.9%)	44	31	-13 (-29.9%)
環境・エンジニアリング	334	304	-30 (-9.1%)	17	1	-16 (-91.6%)
ライフサイエンスその他	150	160	+10 (+6.4%)	5	2	-3 (-66.7%)
(内医薬・医療材)	110	119	+8 (+7.7%)	▲ 2	▲ 4	-2 (-)
計	4,051	3,681	-371 (-9.1%)	201	128	-73 (-36.2%)
消去又は全社				▲ 8	0	+8
連結	4,051	3,681	-371 (-9.1%)	193	128	-65 (-33.5%)

# 事業セグメント別業績(繊維)



## 特記事項

### 東レ: 減収減益

景気低迷の影響により衣料用途の需要不振は拡大。産業用途は自動車用途を中心に需要が急速に落ち込む。前四半期までに転嫁しきれなかった原燃料価格上昇分の価格転嫁に努めるも、販売量減少の影響が大きかった。

### 国内子会社: 減収減益

一部商事子会社が大手SPA向け縫製製品の売り上げを拡大したが、全体では、国内外の需要不振拡大の影響が大きかった。

### 海外子会社: 減収減益

韓国子会社が、現地通貨安による輸出採算改善を主因に、堅調に推移したが、中国子会社が、米国向け輸出の鈍化や中国国内市場での競争激化の影響を受けた。

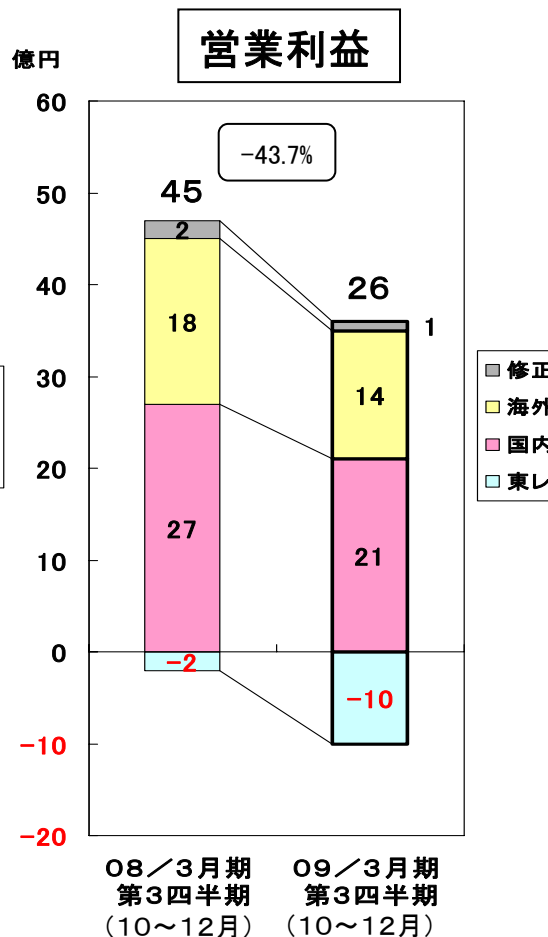
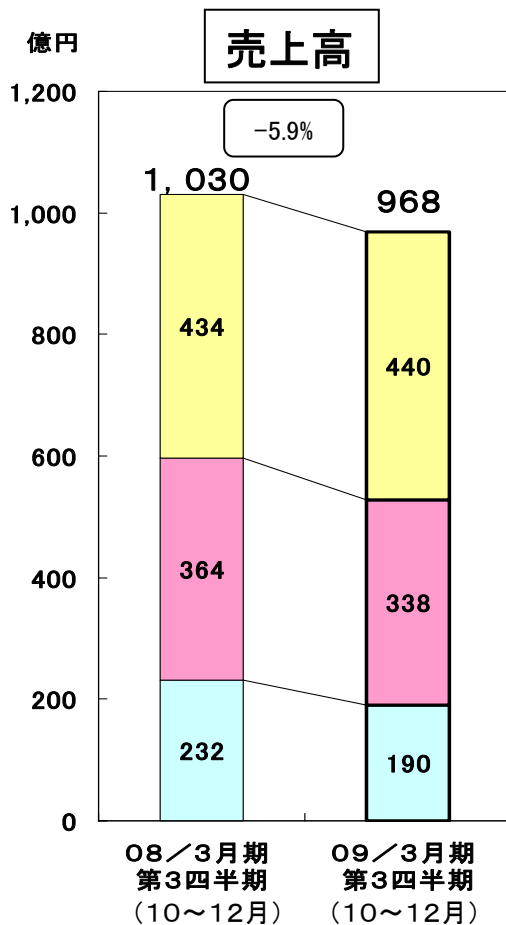
## <主要関係会社>

国内: 東レインターナショナル、一村産業、蝶理 他

アジア: PENFABRIC(マレーシア)、LUCKYTEX(タイ)、ITS(インドネシア)、TFNL(中国) 他

欧米: ALCANTARA(イタリア) 他

# 事業セグメント別業績(プラスチック・ケミカル)



## 特記事項

### 東レ: 減収減益

樹脂事業: 堅調であった自動車、電機・電子用途も含めほぼ全ての用途で販売量が減少した。  
フィルム事業: 太陽電池用途売り上げ拡大も一般工業用途を中心に販売量が減少した。

### 国内子会社: 減収減益

ファインケミカル子会社が、建築、自動車用途の需要減や、円高の影響を受けたこと等による。

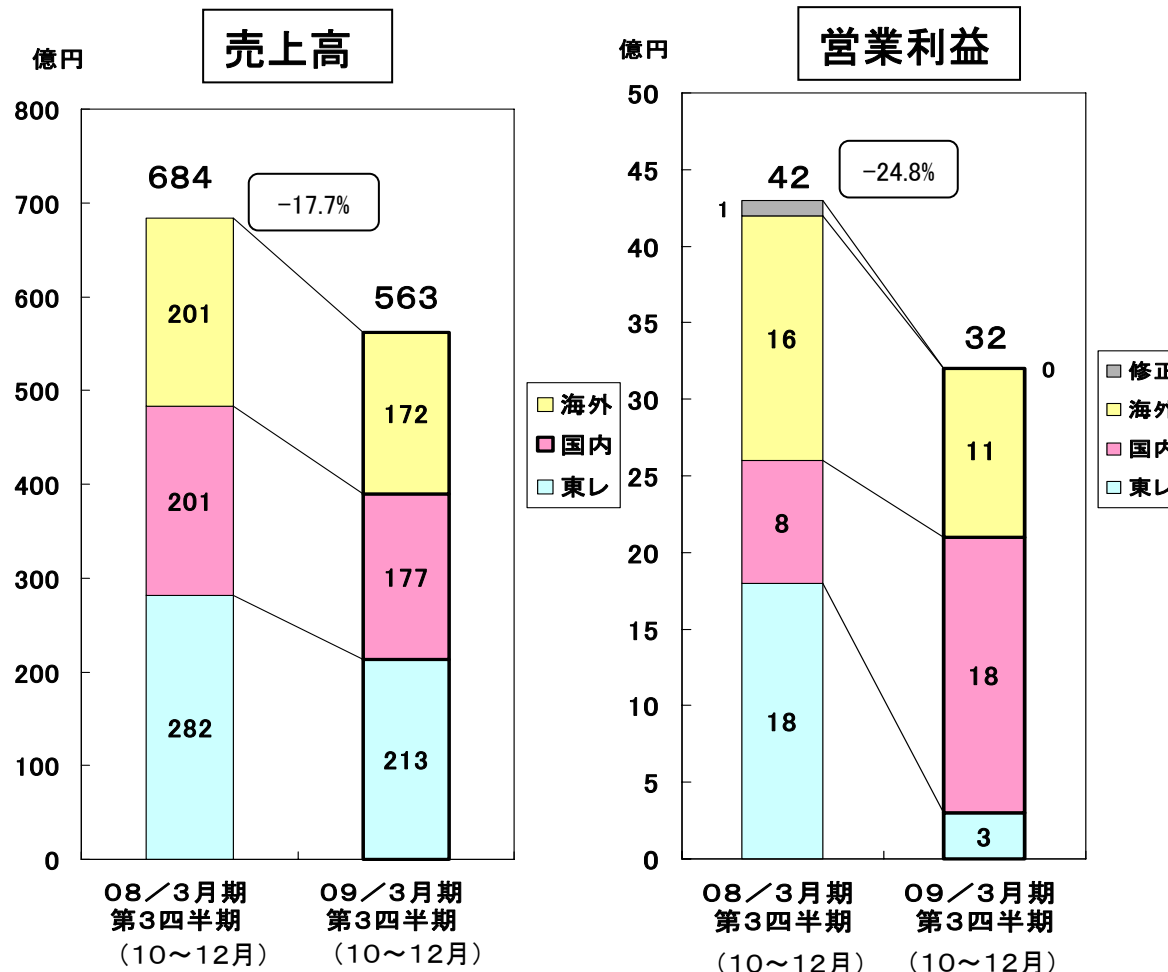
### 海外子会社: 増収減益

マレーシアのフィルム子会社が価格転嫁を進めたことや米国のフィルム子会社が高付加価値品の拡販を進めたが、マレーシア樹脂子会社が、世界的景気後退の影響を受け、販売を大幅に減少させたこと等の影響が大きかった。

### <主要関係会社>

国内: 東レフィルム加工、東レ・ファインケミカル、曾田香料、蝶理 他  
海外: TPA(アメリカ)、TPM(マレーシア)、TPEu(フランス)、TSI(韓国) 他

# 事業セグメント別業績(情報通信材料・機器)



## 特記事項

### 東レ: 減収減益

液晶パネル、電子部品、半導体メモリの生産調整の影響により同用途向け製品を中心に販売量が減少した。

### 国内子会社: 減収増益

商事子会社の取扱高が減少し、フィルム加工子会社が液晶パネルの生産調整の影響を受けた。一方、IT関連機器子会社の液晶関連製造装置の出荷が堅調に推移したこと等が増益に寄与した。

### 海外子会社: 減収減益

韓国フィルム子会社、回路材料子会社が競争激化による価格下落の影響を受けたこと等による。

## <主要関係会社>

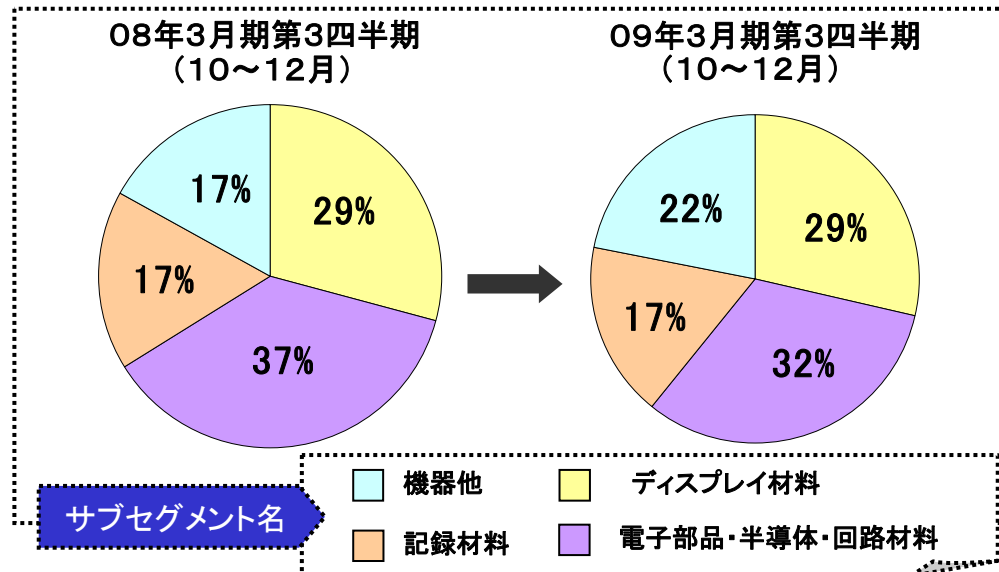
国内: 東レエンジニアリング、東レフィルム加工 他

海外: TPA(アメリカ)、TPEu(フランス)、TSI(韓国)、STEMCO(韓国) 他



# 情報通信材料・機器セグメントの売上高の詳細

## 【サブセグメント別売上高比率】



## 【サブセグメント別売上高推移】

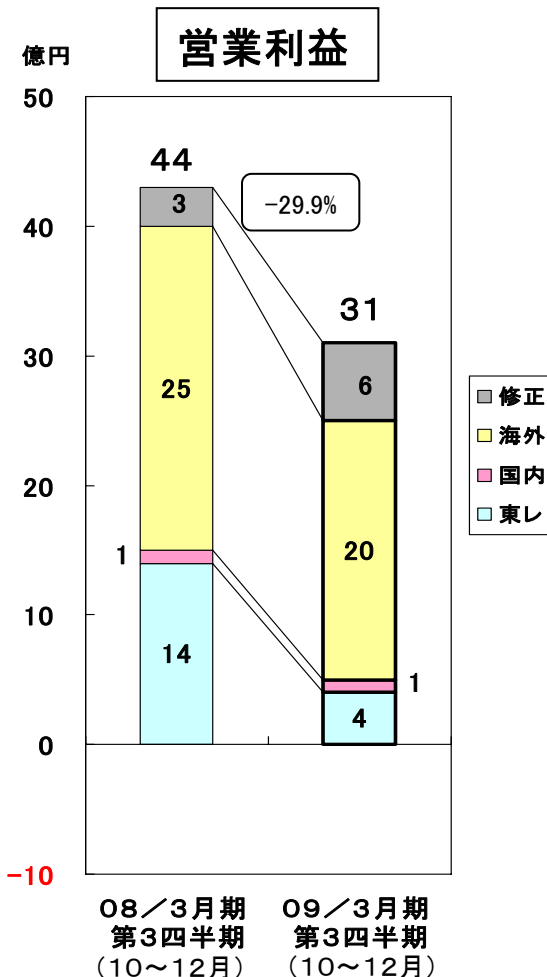
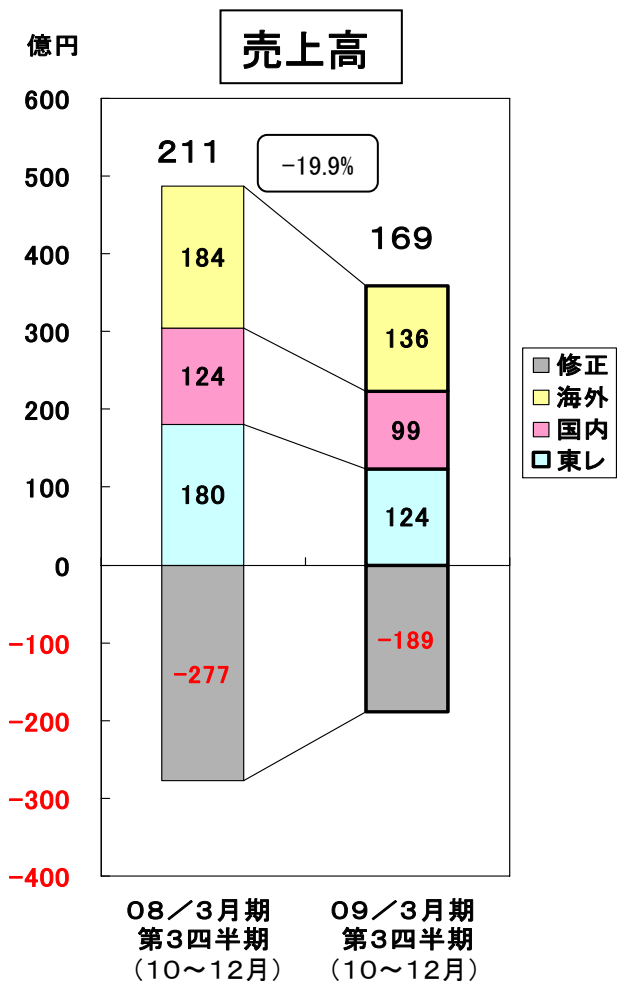
(単位: 億円)

サブセグメント	08年3月期第3四半期 (10~12月)	09年3月期第3四半期 (10~12月)	増減率
ディスプレイ材料	199	161	-19%
電子部品・半導体・回路材料	253	181	-29%
記録材料	116	98	-16%
機器他	116	123	+6%
情報通信材料・機器セグメント合計	684	563	-18%

サブセグメント名	内訳
ディスプレイ材料	光学用フィルム、光学用フィルム加工品、PDPペースト、カラーフィルター、カラーフィルター用ペースト、ケミカル材料、有機EL材料他
電子部品・半導体・回路材料	電子部品・回路用フィルム、FPC用銅張ポリイミドフィルム、TAB用接着テープ、半導体・電子部品用接着シート、半導体コーティング材料、CMPパッド、2層銅張ポリイミドフィルム、TABテープ・COF加工品、樹脂材料、樹脂加工品他
記録材料	磁気材料、TTR (Thermal Transfer Ribbon)・受容紙用フィルム、印写材料他
機器他	液晶スリットコーター、ダイボンディング装置、検査装置、PDP用装置・部品、商社、システム、サービス他

# 事業セグメント別業績(炭素繊維複合材料)

本セグメントでは、日米欧3拠点のグローバルオペレーションの規模が大きく、実態を正しく表すために、内部売上高の消去を外枠で記載しています。



## 特記事項

### 東レ: 減収減益

産業用途は、自動車用途やパソコン筐体の需要減少の影響等により需要の伸びが鈍化。スポーツ用途も低調に推移し、航空機用途もボーイング社向けの引取り遅れの影響を受けた。円高による輸出採算の悪化等もあった。

### 国内子会社: 減収減益

円高の影響を受けた。

### 海外子会社: 減収減益

ボーイング社向け引取り遅れの影響に加え、原燃料価格高騰によるコストアップの影響等もあった。

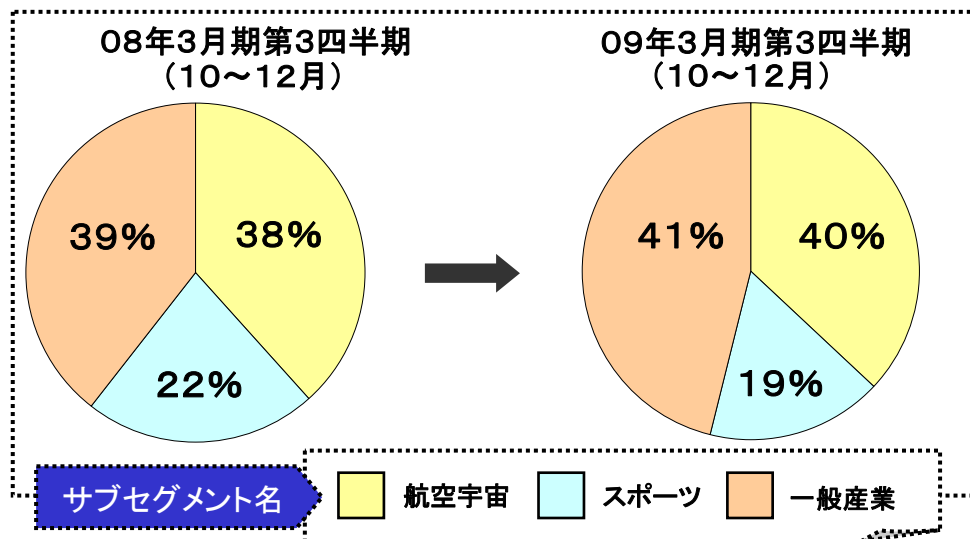
### <主要子会社>

国内: 東レインターナショナル

海外: SOFICAR(フランス)、CFA(アメリカ)、TCA(アメリカ)

# 炭素繊維複合材料セグメントの売上高の詳細

## 【サブセグメント別売上高比率】



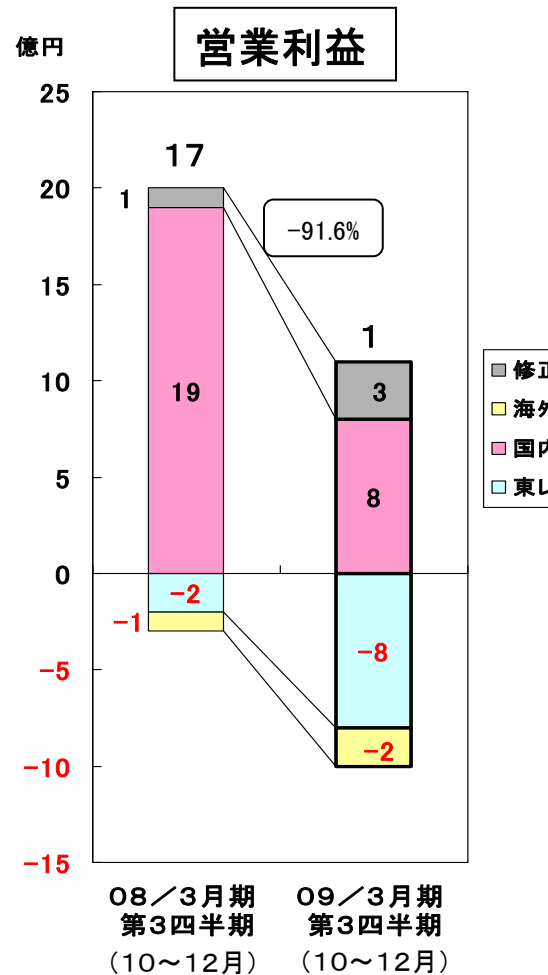
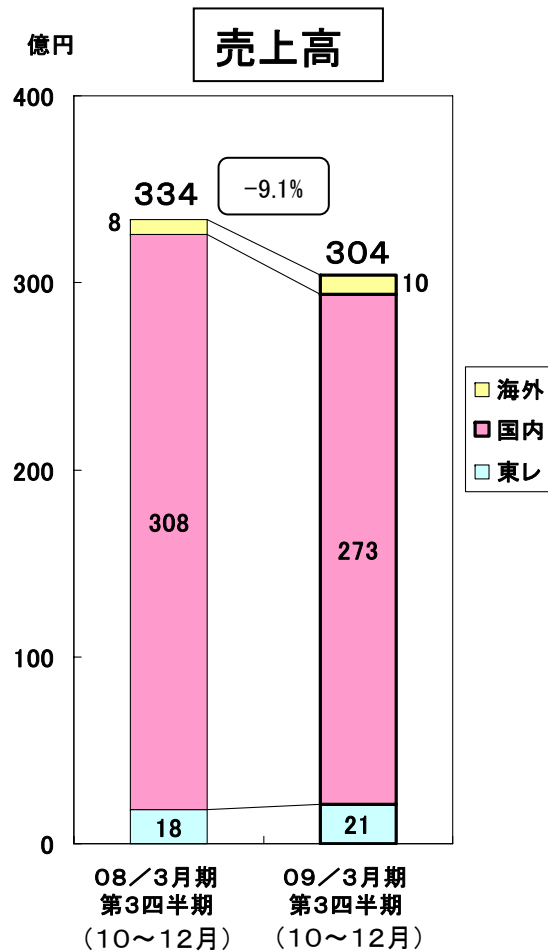
サブセグメント名	用途
航空宇宙	民間航空機 人工衛星 他
スポーツ	ゴルフ 自転車 釣り竿 ラケット 他
一般産業	圧力容器・タンク 自動車 船舶 風車 パソコン用筐体 土木建築 機械部品 燃料電池関連部材 他

## 【サブセグメント別売上高推移】

(単位:億円)

サブセグメント	08年3月期第3四半期 (10~12月)	09年3月期第3四半期 (10~12月)	増減率
航空宇宙	81	68	-16%
スポーツ	47	32	-32%
一般産業	83	69	-16%
炭素繊維複合材料セグメント合計	211	169	-20%

# 事業セグメント別業績(環境・エンジニアリング)



## 特記事項

### 東レ: 増収減益

MBRの受注が中東を中心に順調に拡大。家庭用浄水器の国内販売も堅調に推移。一方、事業拡大に伴う費用増や円高による輸出採算悪化の影響等もあった。

### 国内子会社: 減収減益

エンジニアリング子会社が設備投資の冷え込みの影響で産業機器等の販売を減少。水処理エンジニアリング子会社完成案件が少なかったことに加え、商事子会社の機械輸出の減少等もあった。

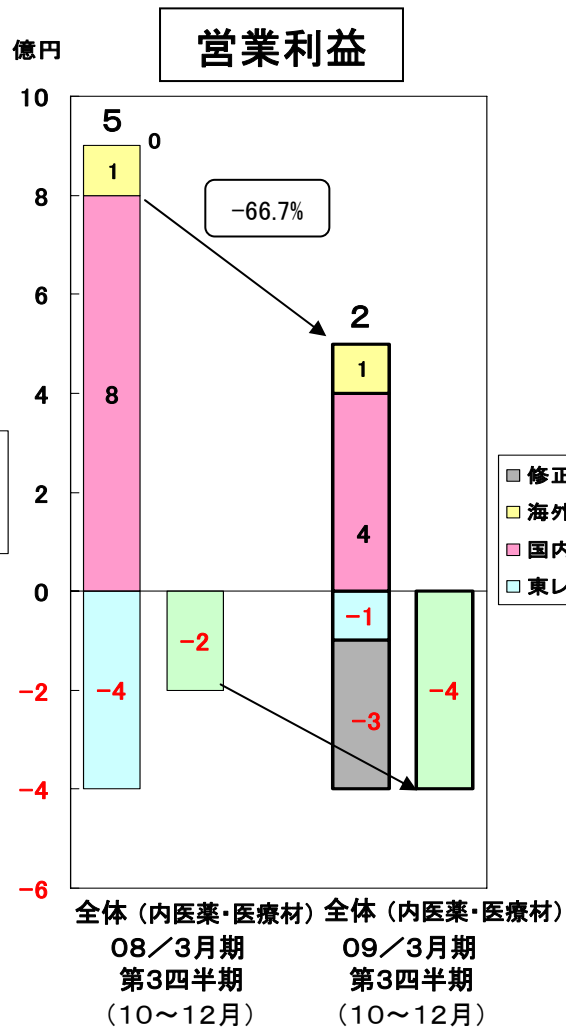
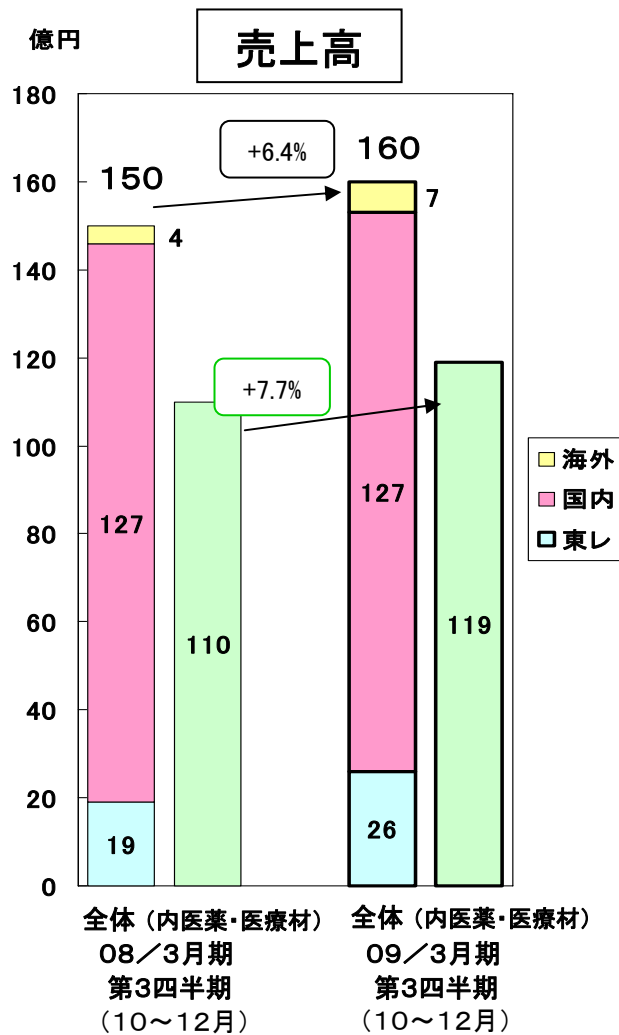
### 海外子会社: 増収減益

米国の水処理関連子会社が売り上げを伸ばしたが、事業拡大のための先行費用増加等もあった。

### <主要子会社>

国内: 東レ建設、東レエンジニアリング、東レACE、水道機工 他

# 事業セグメント別業績(ライフサイエンスその他)



### 特記事項

**医薬・医療材: 増収減益**  
人工腎臓が販売量を伸ばしたが、薬価および償還価格の改定による販売価格の下落の影響があった。

**その他: 売上高横ばい減益**  
分析サービス子会社の半導体分野での受注減等があった。

<主要関係会社>

国内: 東レ・メディカル、東レリサーチセンター、東レインタープライス 他

# 2009年3月期第3四半期累計業績

億円

	08年3月期 第3四半期累計 (4~12月)	09年3月期 第3四半期累計 (4~12月)	増減
売上高	12,075	11,690	- 385 (-3.2%)
売上原価	9,702	9,514	- 188 (-1.9%)
売上総利益	2,373	2,176	- 197 (-8.3%)
(売上高総利益率)	19.7%	18.6%	-1.0 ポイント
販売費及び 一般管理費	1,740	1,745	+5 (+0.3%)
(売上高販管費比率)	14.4%	14.9%	+0.5 ポイント
営業利益	633	431	-202 (-31.9%)
(売上高営業利益率)	5.2%	3.7%	-1.6 ポイント
営業外収支	▲ 42	▲ 95	-53
経常利益	592	336	-255 (-43.1%)
特別損益	▲ 44	▲ 182	-138
税前利益	548	154	-393 (-71.8%)
四半期純利益	320	55	-265 (-82.9%)

為替レート

<円/US\$>

(08/3 3Q累計) → (09/3 3Q累計)

期中平均 : 117.3 → 102.8

期末 : 114.2 → 91.0

<円/ユーロ>

(08/3 3Q累計) → (09/3 3Q累計)

期中平均 : 162.8 → 150.7

期末 : 166.7 → 128.0

原油価格

<US\$/バレル> (DUBAI FOB)

(08/3 3Q累計) → (09/3 3Q累計)

期中平均 : 72.5 → 94.3

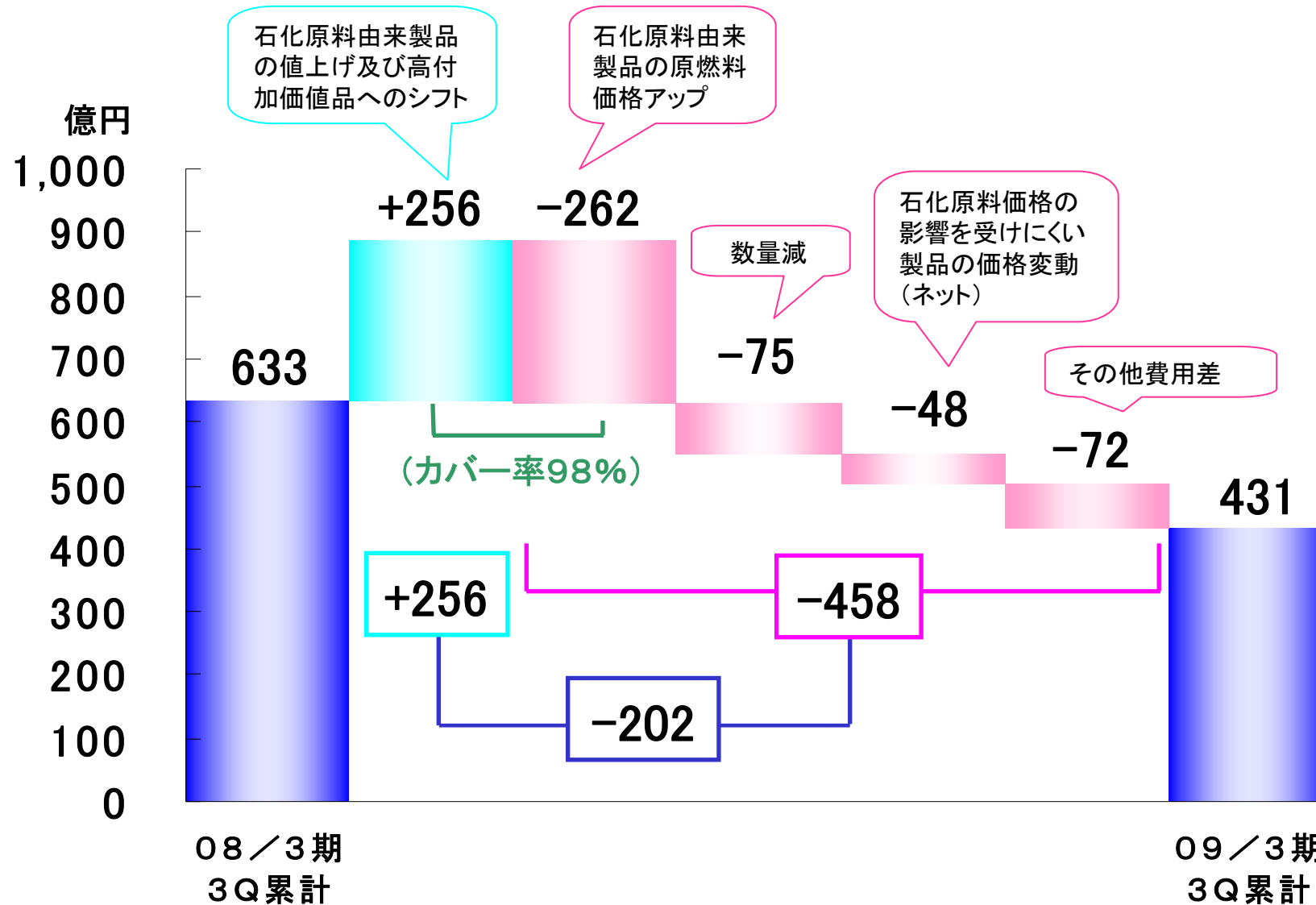
(注)3月期決算会社は4~12月の業績、12月期決算会社は1~9月の業績を連結

# 2009年3月期第3四半期累計セグメント別業績

億円

	売上高			営業利益		
	08年3月期 第3四半期累計 (4~12月)	09年3月期 第3四半期累計 (4~12月)	増減	08年3月期 第3四半期累計 (4~12月)	09年3月期 第3四半期累計 (4~12月)	増減
繊維	4,851	4,522	-329 (-6.8%)	147	99	-48 (-32.6%)
プラスチック・ケミカル	3,023	3,163	+139 (+4.6%)	135	108	-27 (-20.2%)
情報通信材料・機器	2,072	1,874	-197 (-9.5%)	170	128	-42 (-24.8%)
炭素繊維複合材料	610	550	-60 (-9.8%)	126	87	-39 (-31.1%)
環境・エンジニアリング	1,045	1,108	+62 (+6.0%)	42	4	-38 (-90.9%)
ライフサイエンスその他	473	472	-1 (-0.1%)	29	9	-20 (-68.7%)
(内医薬・医療材)	334	340	+6 (+1.8%)	7	▲ 11	-17 (-)
計	12,075	11,690	-385 (-3.2%)	649	434	-215 (-33.1%)
消去又は全社				▲ 15	▲ 3	+13
連結	12,075	11,690	-385 (-3.2%)	633	431	-202 (-31.9%)

# 営業利益増減要因分析(第3四半期累計)





## Ⅱ. 2009年3月期通期連結業績見通し

# 2009年3月期通期連結業績見通し

単位：億円

		08年3月期 実績	09年3月期 前回見通し	09年3月期 今回見通し	対前年比増減	09年3月期 前回見通し との差異
売上高	上期	8,023	8,009	8,009	-15 (-0.2%)	—
	下期	8,473	8,991	6,991	-1,482 (-17.5%)	-2,000
	通期	16,497	17,000	15,000	-1,497 (-9.1%)	-2,000
営業利益	上期	440	303	303	-137 (-31.2%)	—
	下期	594	447	77	-517 (-87.0%)	-370
	通期	1,034	750	380	-654 (-63.3%)	-370
経常利益	上期	419	275	275	-144 (-34.3%)	—
	下期	496	425	▲ 65	-561 (-)	-490
	通期	915	700	210	-705 (-77.0%)	-490
当期純利益	上期	230	105	105	-125 (-54.2%)	—
	下期	251	195	▲ 265	-516 (-)	-460
	通期	481	300	▲ 160	-641 (-)	-460

1株当たり 当期純利益	上期	16.4円	7.5円	7.5円
	下期	17.9円	13.9円	▲18.9円
	通期	34.3円	21.4円	▲11.4円
1株当たり 配当金	上期	5.0円	5.0円	5.0円
	下期	5.0円	5.0円	2.5円
	通期	10.0円	10.0円	7.5円
配当性向	上期	30.4%	66.4%	66.4%
	下期	27.9%	35.9%	(-)
	通期	29.1%	46.7%	(-)

備考：為替レート的前提は、90円/US\$（1月以降）  
原油価格見通しは、45US\$/B(DUBAI FOB)（1月以降）

(注) 前回見通しとは2009年3月期第2四半期決算発表時(11月7日)の見通しです。

# 事業セグメント別売上高・営業利益見通し




単位：億円




	売上高			営業利益		
	08年 3月期	09年 3月期	増減 (%)	08年 3月期	09年 3月期	増減 (%)
繊維	6,373	5,700	-673 (-10.6%)	214	90	-124 (-57.8%)
プラスチック・ケミカル	4,040	3,900	-140 (-3.5%)	207	50	-157 (-75.9%)
情報通信材料・機器	2,837	2,400	-437 (-15.4%)	298	100	-198 (-66.4%)
炭素繊維複合材料	836	700	-136 (-16.2%)	181	100	-81 (-44.7%)
環境・エンジニアリング	1,732	1,650	-82 (-4.7%)	98	30	-68 (-69.2%)
ライフサイエンスその他	678	650	-28 (-4.1%)	63	30	-33 (-52.4%)
(内医薬・医療材)	484	460	-24 (-4.9%)	28	0	-28 (-)
計	16,497	15,000	-1,497 (-9.1%)	1,060	400	-660 (-62.3%)
消去又は全社				▲ 25	▲ 20	+5
連結	16,497	15,000	-1,497 (-9.1%)	1,034	380	-654 (-63.3%)

## 前回見通し → 今回見通し 業績修正の要因分析と対策

営業利益： 750億円 → 380億円 (−370億円)

単位：億円

要因・対策	影響・効果	備考
景気悪化に伴う急激且つ大幅な 需要減少による数量減	 <b>-500</b>	<p>①世界経済：景気後退局面 世界経済実質成長率下方修正 (IMF発表、前年同期比) 08/11月発表時 → 09/1月発表時 08年Q4推定値 2.5% → 1.1% (−1.4ポイント) 09年予測 2.2% → 0.5% (−1.7ポイント)</p> <p>②日本経済：国内需要、外需ともに大幅に減少 (12月鉱工業指数−21%、12月輸出額−35%〔前年同月比〕)</p> <p>③自動車生産台数大幅減少 (12月国内生産台数−24%〔同上〕)</p> <p>④LCDパネル出荷台数大幅減少 (12月台湾大型TFTLCD出荷台数−47%〔同上〕)</p>
原燃料価格下落と価格維持による スプレッド改善	 <b>+130</b>	<p>想定原油価格 (10月以降) 想定：75ドル/バレル → 10~12月実績：52.6ドル/バレル 1~3月予測：45ドル/バレル</p>
費用削減・コスト削減等		<p>営業費の削減、生産効率改善等によるコスト削減、研究開発費抑制、 設備投資の抑制など</p>
合計	<b>−370</b>	

増減益額：  500億円以上  100億円以上  100億円未満

\* 矢印は上向きが増益、下向きが減益

# 経営環境悪化への対応

## 〔経営環境に対する認識〕

金融市場の混乱に端を発した「信用収縮と景気悪化の負の連鎖」が進行  
深刻な世界同時不況と言える状況



実体経済でも急激に需要が減少、回復まで一定の時間がかかると認識

## 〔経済危機克服のための主要課題〕

- ①トータルコスト削減
- ②需要の確保による収益極大化
- ③設備投資の徹底的圧縮と研究開発テーマの厳選
- ④在庫削減等による運転資本の圧縮

# 全社総合対策の推進

08年8月から経営環境悪化への対応策として、全社総合対策を開始  
→事態の深刻化に応じて取り組みをさらに加速

## 2008年8月～

### 全社総合対策 (第1段階)

- ①費用削減の推進
- ②スプレッドの維持拡大
- ③設備投資  
研究開発費  
の抑制

## 2008年12月～

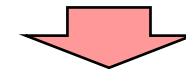
### 全社総合対策 (第2段階)

- 第1段階の取り組み  
強化
- +
- ④減産による  
在庫最適化

## 2009年2月～

### 全社総合対策 (第3段階)

- ①役員賞与ゼロ、役員報酬平均30%削減をはじめ、あらゆる費用の削減への取り組み
- ②需要取り込みによる収益確保
- ③設備投資の徹底的圧縮と研究開発テーマの厳選
- ④減産による在庫削減



来年度も厳しい環境という前提のもとIT-2010の数値目標を当面凍結するとともに、経済危機克服のための全社プログラムを策定中。

## ＜参考資料＞最近のトピックス

# 中国における水処理合弁会社の設立 ～ RO膜の生産設備を新設 ～

中国藍星(集団)股份有限公司(以下:藍星)と東レは、北京市に水処理事業の合弁会社「藍星東麗膜科技有限公司(仮称)」(英文社名:Toray Blue Star Membrane Co., Ltd、以下:T BMC社)を設立することで合意。新会社は資本金3,500万USDで2009年5月に設立され、水処理膜製品の製造・販売および輸出入を行う。T BMC社は約75億円を投じて逆浸透(RO)膜の製膜・エレメント組み立て工場を新設する計画で、2010年4月の稼働を予定。新工場が稼働する2010年には、東レグループROエレメントの年間生産能力を現在の1.5倍に引き上げ。

## 藍星

中国化工集团公司(ChemChina)の子会社。傘下に、中国最大手の水処理エンジニアリング会社や、工業洗浄、石油化学会社を持つ持株会社。中国国内において、水処理膜を輸入・販売。

## 東レ

世界で唯一、自社開発により4種類全ての膜(RO、NF、UF、MF)を有する膜メーカー。様々な水源から様々な水質の水を作ることができる水処理膜の総合技術を保有。

中国における営業ネットワークを活用

水処理膜に関する最新技術を導入

T BMC社

中国における下廃水リサイクルや海水淡水化プラント案件向けに、世界一の品質・コスト競争力を持つ水処理膜を供給。

RO膜を中心とした東レグループ水処理膜事業のグローバル・プレゼンスを一層強化するとともに、中国の環境改善に貢献。



# 欧州での自動車向け炭素繊維複合材料部品の開発・生産に参画 **'TORAY'** ～ドイツのCFRP部品成形メーカーに資本参加～

Innovation by Chemistry

自動車分野での炭素繊維複合材料の事業拡大を推進するため、同分野でのCFRP部品の採用が先行している欧州(ドイツ)の有力CFRP部品メーカー ACE Advanced Composite Engineering GmbH (ACE・アドバンスト・コンポジット・エンジニアリング社、以下「ACE社」)に資本参加(出資比率:21%)。

自動車外板用のCFRP部品は、成形時間が長くコストが高いため、現状での採用は、生産台数がごく少量で市場価格が非常に高いスーパーカー・超高級車が中心。



成形技術の革新

年産一万台規模の中量産車種に対応できるRTM 成形技術が今後の主流

**ACE社**

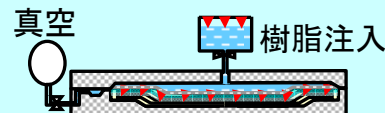
高級車等のCFRP部品の開発・生産・販売



高い技術力は、欧州主要自動車メーカーから高い評価

**東レ**

独自のRTM成形技術



新技術、高品質で日系自動車メーカー中心に採用多数

成形技術の更なる革新

開発期間の短縮

両社の技術の融合

グローバルな開発体制の下で自動車用CFRP部品の開発を推進。

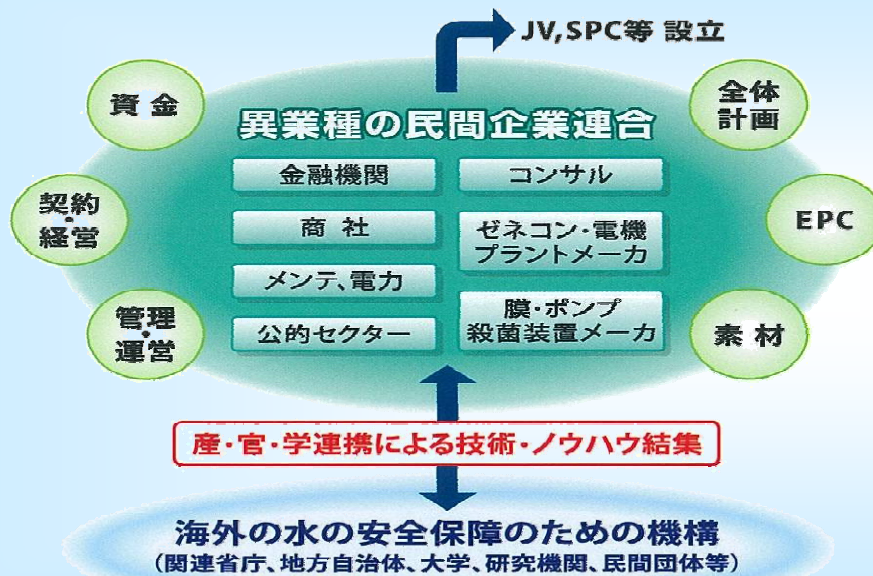
CFRP部品の量産車種への本格採用を加速。2015年近傍に自動車分野向けのCFRP部品事業の売上高を500億円規模に拡大する計画。

# 地球規模での「水問題」解決に向け「オールジャパン」体制を構築 有限責任事業組合「海外水循環システム協議会」設立

地球規模での「水問題」解決に向け、わが国の優れた技術・ノウハウを結集する「オールジャパン」体制を構築すべく、有限責任事業組合 海外水循環システム協議会 (Limited Liability Partnership Global Water Recycle System Association、略称:GWRA)を設立。この協議会には東レを含む14社 (2009年1月16日現在)の関連企業が参加し、官・学との連携を図りながら2014年3月までの間、海外展開のための水循環システム運営事業の基盤確立に向けて活動を展開。

日本は優れた水処理技術を持ちながら管理運営面での実績が少なく、欧州をはじめとする海外企業に先行されている。

オールジャパン体制でトータル・ソリューションを提供



海外水循環システム協議会資料



(左から: 東レ 栗原顧問、東レ 日覺副社長、日立製作所(株) 桑原特別顧問、鹿島建設(株) 浦嶋執行役員、(株)日立プラントテクノロジー 伊藤事業開発部長)

水循環システム運営事業の海外展開の早期実現をめざす。

# 経口そう痒症改善剤「レミッチ®カプセル2.5μg」の 国内における製造販売承認取得

東レと日本たばこ産業株式会社および鳥居薬品株式会社は、3社で共同開発し、東レが承認申請をしていた経口そう痒症改善剤「レミッチ®カプセル2.5μg」（一般名：ナルフラフィン塩酸塩）について、「血液透析患者におけるそう痒症の改善（既存治療で効果不十分な場合に限る）」を効能効果として製造販売承認を取得。本剤の販売は鳥居薬品が行う。

## 血液透析患者におけるそう痒症

炎症などを伴わない全身性の強い痒みで、はっきりとした原因は不明。

従来 of 止痒薬（抗ヒスタミン薬など）では十分に抑えられないこともあり、有効な薬剤の開発が望まれていた。

## 経口そう痒症改善剤「レミッチ®」



血液透析患者の既存治療抵抗性の痒みを抑える世界初の選択的オピオイドκ（カッパ）受容体作動薬



今回の承認取得により、本剤は血液透析患者におけるそう痒症治療に大きく貢献できるものと期待。

本資料中の2009年3月期の業績見通し、及び事業計画・将来展望についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。

本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。